

令和8年度入学生 介護福祉学科科目のねらい

領域	教育内容	科目名	開講時期	ねらい	担当教員	
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1・前	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。	盛
		人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1・後	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。	佐藤、四宮
			チームマネジメント	2・後	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。	細田
	社会の理解	社会と生活のしくみ	1・後	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えること、また対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。	佐藤	
		社会保障制度	2・後	日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。	上田・盛	
	選択科目	国際理解と情報	国際理解と情報	1・前	世界に目を向け、未来の日本の介護を考える。情報収集、情報発信の方法として、ICT教育を活用し、自らの判断基準をもつことができるよう学習する。	佐藤
			健康と生活	1・前	WHOの示す健康の定義を理解する。要介護者と介護者両者の健康について考え、自らの健康意識（健康管理）を高め、食事、運動等の生活における留意点を学習する。介護予防について指導方法を学習する。	河野磨
			キャリア形成実践	2・前	自らのキャリアデザインを考え、目的を明確にすることで、主体的に取り組む力を実践を通して学習する。職業人としての規律や自己覚知することで個々の持っている力を伸ばすことを目的とする。	細田
			介護福祉学総論	2・後	介護福祉学における知識を習得し、介護福祉士国家試験合格に向けて、また「目指す介護福祉士像」に到達できるようすべての科目を総合し学習する。	細田 上田
	介護	介護の基本	介護の基本	1・前	複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を学ぶ。地域や施設・在宅の場合や介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を学習する。	佐藤
生活と介護			2・前	介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関りを学習する。	遠藤	
介護サービスと地域連携			1・後	介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援について学習する。	佐藤	
介護の倫理と自立支援			2・前	介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学習する。	河野・森下	
介護の多職種連携			2・後	多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を学習する。	佐藤	
介護のリスクマネジメント			1・後	介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、介護従事者自身が心身共に健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学習する。	佐藤	
コミュニケーション技術		コミュニケーション基礎	1・前	利用者の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を学ぶ。また、家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を学習する。	遠藤	
		コミュニケーション応用	1・後	障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を学ぶ。また、情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について学習する。	細田	
生活支援技術		生活環境の支援技術	1・前	住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備についての基礎的な技術を学ぶ。家事支援として、ベッドメイキング、掃除の技術を学習する。	佐藤	
		移動の支援技術	1・前	生活支援とは何かを学ぶ。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための移動の支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける学習をする。	河野	
		身じたくの支援技術	1・後	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための身じたくの支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける学習をする。身じたくに関する家事支援として、裁縫、洗濯、衣類の管理についても学習する。	遠藤	
		食事の支援技術	1・前	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための食事の支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける学習をする。	上田・河野	
		清潔の支援技術	1・後	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための清潔の支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける学習をする。	遠藤・河野	
		排泄の支援技術	1・後	対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための排泄の支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける学習をする。	遠藤	
		休息・終末期の支援技術	2・前	健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援、また人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について学ぶ学習をする。	遠藤・河野	
		家事支援技術	2・前	生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な技術を学ぶ。この授業では、買い物、調理、家庭経営について学習する。	令和8年度開講なし	
		福祉用具活用と災害時支援	2・後	介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、利用者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識や技術を学ぶ。また、災害時の支援について学習する。	河野・河野磨	
		障害の特性に応じた支援技術	2・後	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者主体の生活が継続できるよう、障害の特性に応じた根拠に基づいた介護実践技術を学ぶ。応急手当についても学習する。	細田・近久	
		介護過程	介護過程基礎	1・前	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を学習する。	河野
			介護過程（高齢者）	1・後	施設入所高齢者の事例を通じて、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。	河野
介護過程（障害者）	1・後		障害者の事例を通じて、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。	上田		
介護過程（居宅）	2・前		在宅で生活する要介護高齢者の事例を通じて、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。	佐藤		
介護過程統合	2・後		介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を学ぶ。事例の生活課題を明確にし、その背景となる要因については、他科目での学習を統合して考える力をもつことができる学習とする。	河野		
介護総合演習	介護総合演習（基礎）	1・前	①実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる学習とする。	細田・藤原		
	介護総合演習（参加）	1・後	②介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、専門職としての態度を養う学習とする。	上田		
	介護総合演習（総合）	2・前	③実習を振り返り介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、進化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う学習とする。	遠藤		
	介護総合演習（発展）	2・後	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を学ぶ。自己の介護観を構築する。介護実習での学びを報告会を通してプレゼンテーションできる学習とする。	遠藤		
介護実習	介護実習（基礎）	1・前	地域における様々な場において、利用者の生活を理解し、利用者や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。	細田・佐藤 遠藤・河野		
	介護実習（参加）	1・後	本人の望む生活の実現に向けて、多職種と協働の中で、介護過程を実践する能力を習得する。地域での生活を支える施設の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。指導のもと、生活支援技術を実施する。受け持ち利用者の生活全般の解決すべき課題を明確にする。	上田・遠藤 細田・佐藤 河野		
	介護実習（総合）	2・前	本人の望む生活の実現に向けて、多職種と協働の中で、介護過程を実践する能力を習得する。加えて、サービス担当者会議やカンファレンス等を通して、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ学習とする。主体的に生活支援技術を実施する。受け持ち利用者の介護計画を立案し、計画に沿った実施、評価できる。	遠藤・上田 細田・佐藤 河野		
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみの基礎	1・前	介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を学習する。	津田		
	こころとからだのしくみ	移動・食事に関連したこころとからだのしくみ	1・前	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、移動・食事場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学習する。	津田	
		清潔・排泄に関連したこころとからだのしくみ	1・後	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、清潔・排泄場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学習する。	佐藤・河野	
		睡眠・終末期に関連したこころとからだのしくみ	2・前	人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を学習する。	細田	
	発達と老化の理解	成長と発達	2・前	人間の成長と発達の基本となる考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について学習する。	細田	
		高齢者の健康	2・後	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習する。	細田	
	認知症の理解	認知症の理解	1・前	認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について学ぶ。また、医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理状態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を学習する。	河野	
		認知症のある人への支援	1・後	認知症の人の生活及び家族や社会との関りへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながるよう学ぶ。また、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・共同による基礎的な知識、認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族支援についても学習する。	河野	
	障害の理解	障害の理解	1・前	障害のある人への生活を支援するという観点から、障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を学ぶ。医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を学習する。	上田・武田 森本	
		障害のある人への支援	2・後	障害のある人へのライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援を学ぶ。また、障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を学習する。加えて、障害のある人を支える家族支援についても学習する。	上田・盛 森本・小林	
特設科目	医療的ケア基礎	1・後	医療的ケアの実施に関する制度や概要及び医療的ケアと関連付けた「人間の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。	津田		
	医療的ケア総論	2・後	安全かつ適切に医療的ケアを提供するために、経管栄養および喀痰吸引に関する基本的理解を深め、必要な基礎的な知識と技術を身につける。また、救急時の初期対応、応急手当の方法を学び、医療との連携の重要性を学習する。	令和8年度開講なし		
	医療的ケア各論	2・後	喀痰吸引、経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、実施手順方法を学ぶ。安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を学習する。	令和8年度開講なし		
特設科目	ユニバーサルスポーツ	1・後	ゲートボール及び障がい者スポーツを通して、地域の高齢者や障がい者と交流大会を行い、コミュニケーションを豊かにする力をもつ。ゲートボール3級審判員、初級パラスポーツ指導員の資格を取得する学習をする。	宮本・中西 遠藤・後藤 河野		